

2019

創造力を育む遊具

Toy for Harnessing Creativity

AD26 谷川 昂之
指導教員 杉島 一男

1. 研究目的

現在の子供達は創造力が低下しているという傾向があることを資料で知った。それは、ゲームの発達などにより遊びを作らなくなってしまったことが原因だと思い作って遊ぶことで創造力を育ませる遊具を提示しようと考えた。

経験上、創造力を育ませることが出来る遊びの一つは秘密基地での遊びだと考え秘密基地と子供の関係について研究しそれに伴う遊具を創作する。

2. 調査と分析

現状の秘密基地をイメージさせる商品の調査をした結果、大人が組み立てる物が多い。自分で工夫して遊ぶような商品は少なかった。

秘密基地に相当する遊びの調査でわかったことは

- ・自然の中で遊んでいる。
 - ・外で秘密基地を作っている子もいる。
 - ・遊ぶ環境の少ない子は家で遊んでいる。
 - ・家で遊ぶ子の中には秘密基地で遊ぶ子もいる。
- 外で作る秘密基地には、危険な場所や治安が悪いという安心・安全を心配する親の意見があった。自宅で秘密基地で遊ぶ子供の調査をした。
- ・年齢は8歳～9歳が多い。
 - ・人数は2人～3人であった。
 - ・男女共に遊んでいる。

上記の内容をふまえ自宅で子供達だけで作る秘密基地に着眼した。

3. コンセプトの立案

「自宅で手軽に遊べる秘密基地」

- ・ベランダや庭で簡単に組み立てられる。
- ・秘密基地の要素を整える。
- ・楽しい雰囲気の外観。

4. デザイン展開

最初に私が考える秘密基地の要素を取り入れた1/1スタディーモデルを製作した。実際に子供達に遊んでもらい秘密基地の要素は「外観は、入り口が狭い・薄暗い・部屋みたい・ダンボール」ということがわかった。

それに基づいた外観「正多面体の中が広いデザイン・組立てやすさを重視し面が少ないデザイン・多面体で中は外見より狭いデザイン」の3つのデ

ザインし1/5のモデルを3つ作り、組み立てて中にはいってみたいのはどれかというアンケート調査をした。そのアンケート調査を参考にし作る楽しさがある、達成感を味わえる多面体のデザインしようと考えた。

大きさは1000×1000×800の子供が2人入れるぐらいにした。また、多面体のため組み立てをパーツごとに分け展開図を組み立てる方法にした。また接着は、マジックテープを短く切り感覚を開けて貼り接着する箇所には、同じ色・形のシールを張ることで組み立て易くした。

更に楽しんでもらうために「中から外を見渡せる紙パイプの潜望鏡・基地を怪しく照らすダンボールのLED照明・大切なものを収納できる座れる箱」の3つのアイテムも作った。

5. 完成図



6. 結論

最終モデルで検証をした。組み立ては思っていたよりもスムーズであり教えなくても組み立てることができていた。入り口の狭さも丁度良く出たり入ったりを繰り返したり天井の窓から顔を覗かしたりと楽しそうであった。3つのアイテムも子供達は楽しげに使っていた。特に潜望鏡は人気であった。屋根部分の接着部分は強化しないと体重をかけると屋根が落ちてしまうことがわかった。

7. 参考文献

「創造力と教育システム」

http://www.ne.jp/asahi/patent/toyama/mohou_souzou/ab_school.htm